

2012.12.20 (vol.37)

高校教育課 情報メール

発行者：宮城県教育庁高校教育課
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/>

このメールマガジンは今年度最後の配信となります。

高校入試に関しては、先月、第1回志願者予備調査の結果が発表されましたが、年明けには第2回志願者予備調査があります。そして、その後すぐに前期選抜の出願受付と続きます。

今回初めて実施される前期選抜は、出願方法が、昨年度までの推薦入試とは異なります。よく調べて間違いのないようにお願いします。

宮城県のホームページがリニューアルされました。高校教育課等のアドレスが変更になっていますので、注意してください。

公立高校ガイドブック、前期選抜入試に必要な志願理由書、平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧などの情報は、上記の高校教育課のページを御覧ください。

<それぞれの公立高校ホームページはこちらから>

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/koukou.html>

■ もくじ ■

1 高校の特色ある取組（各高等学校からの情報）

- (1) 白石高等学校
 <2年次「M&Tタイム」で「課題研究」を実施>
- (2) 白石工業高等学校 電気科
 <国家資格「第二種電気工事士」“電気科1年生が挑戦”>
- (3) 宮城広瀬高等学校 総務部長 奈須野 文人
 <ボランティア>
- (4) 名取北高等学校
 <特色ある取り組み>

2 学校紹介スペシャル（各高等学校からの情報）

- (1) 仙台東高等学校
 <今年特筆すべき News >
- (2) 古川黎明中学校・高等学校
 <スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校として
 新たなステージへ>
- (3) 貞山高等学校
 <昼間部2年次体験学習「学校見学」を実施しました>

3 コラム（各高等学校からの情報）

（1）亙理高等学校

＜わくわくわたこう 秋のお祭り大特集！＞

（2）水産高等学校

＜心高鳴る海＞

4 編集後記

■ 1 高校の特色ある取組 ■

宮城県の高등학교の特色ある取組についての情報を紹介するコーナーです。

□（1）白石高等学校

｜ <2年次「M&Tタイム」で「課題研究」を実施>

宮城県白石高等学校では、1・2年次の「総合的学習の時間」を「M&Tタイム（学びと問いの時間）」と呼んで、独自のプログラムで実施しています。10月からの2年次のM&Tタイムは「課題研究」を行っています。これは、自ら課題を見つけて問題を解決する能力を養うことを目的として、白石あるいは仙南にかかわる身近なテーマについて、生徒が自分たちで調べたり集めたりした情報を元に、実証研究を行うという取組です。

2年次の全生徒約280名は、国語・数学・英語・理科・地歴・公民・体育・家庭・看護の分野別に分散し、さらに合計51箇の班に分かれました。そして自由に設定したテーマに関する「仮説」を証明するべく、実験や観察、アンケート実施やインタビューなどデータ収集を進めています。来年1月には分野ごとにプレゼン発表会、2月にはポスターセッションによる全体発表会を実施して、優劣を競います。

→<ホームページはこちら> <http://hakko.myswan.ne.jp/>

□（2）白石工業高等学校 電気科

｜ <国家資格「第二種電気工事士」“電気科1年生が挑戦”>

電気科では昨年度から、入学後間もない1年生に、国家資格「第二種電気工事士」取得を挑戦させています。

4月に受験を申込み、5月から放課後に実施する一次（筆記）試験対策講習会を受講します。学校の授業でもまだ習っていない電気の配線図・法令・施工・検査・測定など不安を抱えて6月に受験。一次試験に合格した生徒の次の目標は7月下旬に行われる二次（技能）試験「制限時間40分間で課題回路図を製作する」を最終合格することです。今まで触れたことがない工具・電線・器具・制限時間など、技能試験対策講習会を受講しながら、ますます不安が募ったと思います。

昨年度1年生の最終合格（資格取得）生徒数は、受験者19名中13名。今年度は受験者16名中10名でした。

電気技術者の登竜門である「第二種電気工事士」という国家資格取得が生徒の今

後の学校生活に及ぼす影響は大きいものがあります。目標を立て、それに向かって努力し、結果を出したという達成感は、自身を活性化させ今後の学校生活全般への意欲を向上させます。また、技能を伴う資格取得は座学とは違う学習領域の発見にもつながります。それによって、工業高校で学ぶ「ものづくり」の意義や自信を獲得し、様々な波及効果を期待しています。

→<ホームページはこちら>

<http://shiroishi-kougyou.myswan.ne.jp/mein.html>

□ (3) 宮城広瀬高等学校 総務部長 奈須野 文人

| <ボランティア>

震災後、「ボランティア」活動がマスコミによって取り上げられる機会が増えていますが、その多くは、震災による被害家屋の片付けや復旧に向けた仕事の支援といった、ある意味で特別なものです。本校生徒が参加しているものは、日常生活の中で取り組むことの出来る奉仕活動で、部活動としての「奉仕活動部」があります。

もちろん、「奉仕活動部」に所属しなくても、ボランティア活動は出来ます。また、既にメールマガジンでも紹介してまいりましたが、本校はボランティア活動を「社会体験・ボランティア活動」の単位として認めています。

本校生徒が参加したもので、主なものを紹介します。

本校の東隣にある「ドナルド・マクドナルド・ハウス」、西隣にある「県立子ども病院」での定期的な活動、仙台市のイベントとして定着した「青葉祭」、「仙台七夕花火祭」、「みちのくYOSAKOIまつり」での運営協力、近隣の児童センターでの「読み聞かせボランティア」、その他、地域、福祉施設等からの要請に答えています。

今年度の活躍の一例を紹介しますと、1年生で大きな表彰を受けた生徒がおります。文部科学省が後援している「第16回ボランティア・スピリット・アワード」で「北海道・東北ブロック コミュニティ賞」に選出され、札幌で実施されるフォーラムに招待されます。

高校でボランティア活動に取り組んでみたいと考えているのであれば、ぜひ本校で頑張ってみませんか。

*「河北ウイークリーせんだい ジュニア2012冬号」の「高校訪問」で宮城広瀬高校の特集が生まれ、詳しく紹介されております。どうぞご覧になって下さい。

→<ホームページはこちら> <http://hirose-h.myswan.ne.jp/>

□ (4) 名取北高等学校

| <特色ある取り組み>

<笹かま作りで交流体験>

震災復興支援の一環として、去る10月12日(金)に熊本県立鹿本農業高校農業クラブの女子生徒3人が来県しました。翌13日は本校生5人とともに地元の笹かま製造会社でオリジナル笹かまの試作です。アイデアや材料は鹿本農高生が準備し本校生がお手伝いをしました。その独自性に本校生も驚き感心することしきり。

本校生の感想。

「生のかまぼってこんなにムニユムニユしてるんだあ。」

「テレビ局の取材にドキドキしました。」

「こんなかまぼこ食べたことがない。すごいアイデア！」

教室では味わえない貴重な体験をしたようです。

※鹿本農高生は6時間授業を終えて来たそうです。仙台空港には20時45分に着きました。以てまねぶべし。

〈防災教育DVD作成に協力〉

名取市では昨年の大震災に鑑み市民向け防災教育DVDを作成することになり、依頼により本校生（放送部の男女6人）が参加助成しました。内容は被災者へのインタビューです。彼らが共通しておっしゃっていたのは「とにかく自分の身は自分で守る覚悟」でした。生徒の中には被災者もいておおきく頷いていました。大震災の体験が風化しつつある昨今生徒も何かしら感じるものがあったようです。2日間の手伝いでしたがどの生徒も心地よい充実感を持って撮影を終了しました。

尚DVDの完成は2月になるそうです。

〈いざセンター試験へ、本番会場を使ってリハーサル〉

本校のセンター試験受験者は12月22日（土）、センター試験の会場となる仙台大学で、予想問題を用いて本番を想定したりハーサルを行います。本番と同じ交通手段で仙台大学に行き、実際に使用する教室、机、いすを用いて模擬試験を受けます。実際に会場に来てみることで、どのくらい時間がかかるか、万一の場合の交通手段をどうすべきか、寒さ対策として何を準備すべきかなど多くの知見が得られることと思います。さらには会場に慣れることで不安が取り除かれ、本番までの約1ヶ月を受験勉強に集中できる効果も期待できます。

→〈詳細は本校ホームページに掲載中〉 <http://natorikita.myswan.ne.jp/>

■ 2 学校紹介スペシャル ■

高等学校の特色ある取組を含めて学校の取組全体をくわしく紹介するスペシャルコーナーです。

□（1）仙台東高等学校

┆ <今年特筆すべき News >

東高校の特徴のひとつに国際交流教育があります。特に本年10月初旬に行われたキズナ強化プロジェクトは大きな成果を収めました。25名の生徒（普通科6名、英語科19名）が日本全国から選抜された1,000名の高校生とともに2週間の日程でアメリカ合衆国を訪問しました。首都ワシントン・ニューヨーク・オハイオ州で東日本大震災の復興について被災地からの情報を伝えアメリカからの支援に感謝する発表を英語で行いました。現地の新聞に取り上げられるほど好評でした。

また同じく10月下旬に行われた東北六県高等学校英語弁論大会で3年生の大井彩花さんが第三位に入賞しました。残念ながら第二位まで出場出来る全国大会への

切符は手にすることが出来ませんでした。「As a part of this world（この世界の一人として）」というテーマで望んだスピーチは国内のみで英語教育を受けた高校生としては内容もしっかりしており二位の生徒とほぼ同じである。今後の成長に期待するとの講評を審査員から頂きました。

韓国へのキズナプロジェクトにも2名の生徒が参加。

県国際理解教育弁論大会にも2名が上位入賞するなど大きな成果をあげました。

部活動でも吹奏楽部のマーチングバンド東北大会出場など、教科・部活動に力をつけて活躍する生徒が多いです。これが仙台東高校の誇れる一面だと思います。

→<ホームページはこちら> <http://higasi-h.myswan.ne.jp/>

□（２）古川黎明中学校・高等学校

＜スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校として
新たなステージへ＞

4月のSSH指定以降、様々な分野の著名な先生方による講演会、スカイプを用いたオーストラリアの高校との同時日食観察、地球探査船「ちきゅう」との中継授業、JAXAを始め県内外の各種研究施設の見学などSSH関連の様々な行事を行うとともに、「SSラボ」「SS総合」等の授業で各種実験、体験活動、課題研究に取り組むなど理科教育の充実に努めてきました。

同時に、国際教育充実の観点から、キズナ強化プロジェクトなどの海外研修にも積極的に参加し、これまでに、イギリス、ベルギー、韓国に生徒を派遣してきました。

3月には、SSH事業でアメリカ西海岸シリコンバレーに、キズナ強化プロジェクトでアメリカ東海岸に行く予定になっています。また、12月には、ASEAN諸国などオセアニア、アジアの国々から約90名の学生を迎え入れることになっており、東日本大震災についてのプレゼン、書道、茶道の体験などの交流プログラムを準備しています。加えて、7月にタイの教育訪問団を受け入れるなど、同国の科学先進校との連携を模索しております。

このような活動を通して、理系、文系にかかわらず生徒全員、そして教員も視野を広げてきました。今後もより一層魅力あふれる学校を目指し取り組みを強化していく予定です。

なお、本校のSSHの取り組みの詳細につきましては、下記のHPをご覧ください。

→<ホームページはこちら> <http://freimei-j.myswan.ne.jp/>（中学校）
<http://freimei-h.myswan.ne.jp/>（高等学校）

□（３）貞山高等学校

＜昼間部2年次体験学習「学校見学」を実施しました＞

本校では上級学校を研究することによって、自分自身の進路選択に役立てることを目的として、毎年昼間部2年次において、学校見学を実施しております。今年度は11月14日（水）に学校からバス2台に分乗し、東北文化学園大学と東北文化学園専門学校を見学しました。

まず、全体会にて、学校概要の説明を受け、その後、①医療福祉コース、②工業コースに分かれて、大学および専門学校の施設説明そして模擬授業に参加するといった内容で実施しました。見学した生徒達は、充実した施設設備を目の当たりにするとともに、実際に授業を体験することができて、大変満足の様子でした。また、キャンパスの自由な雰囲気をも自分の目で感じていたようです。この機会が、進路選択のヒントを得るひとつのきっかけになったと思います。

→<ホームページはこちら> <http://teizan.myswan.ne.jp/>

■ 3 コラム ■

高等学校の校長先生、一般の先生、生徒代表などが、「我が校」に対する思い、最近の話題などについて語ります。その高校の新しい魅力が発見できるコーナーです。

□ (1) 亘理高等学校

| <わくわくわたこう 秋のお祭り大特集！>

●「亘高祭2012」開催 10月26日(金)27(土)●

500人余りの来場者をお迎えし、盛り上がった亘高祭。イケメンズのコンサートや吹奏楽の演奏、演劇部公演、ダンスパフォーマンス、家政科ファッションショー、書道同好会による生パフォーマンス等々の文化部や各学科の生徒の様々な発表や展示、そして毎年行列の園芸コースとりたて野菜販売と大成功の2日間でした。

★インタビュー！ 生徒会長 武者 勝志くん★

今年の文化祭は例年と違う内容にしようと、夏のリーダー研修会から考えていました。まず、初日を全校で盛り上げられる内容にしたいと思い、ステージ発表を工夫し組み込みました。この企画はとてもよかったと思います。放課後、夜遅くまで準備を進め、共に仕事をしたイツメン(生徒会役員)には本当に感謝しています。全ての力を出しきり、疲れましたが、一生思い出に残る文化祭となりました。ご協力ありがとうございました。

●わたりトコトン商人(あきんど)まつりに参加 10月28日(日)●

このまつりは亘理町五日町商店街と中町商店街の一部を歩行者専用道路にして開かれるもので、地場産品や野菜などを販売したり、数カ所にイベントステージを設けて、わたり街角ライブも開催されます。亘理高校では、園芸コースの野菜や食品化学科のジャム・パン、家政科の手芸品の販売・おりがみ体験のコーナーを設け参加しました。

★インタビュー！ むすび丸として参加 2-1 吉田あやのさん★

当日は天候が悪く、祭りを成功させることができるか不安でした。先生や友達、亘理町民のみなさんの協力で楽しい祭りになるよう盛り上げることができました。このお祭りをを通して“人のあたたかさ”に触れることができ、とてもよい経験となりました。町民のみなさんは明るくて親切で、本当にこの仕事に携わることができて良かったです。この経験を活かして、これからも学校生活を頑張っていきたいです。

→<ホームページはこちら> <http://watari-h.myswan.ne.jp/>

□ (2) 水産高等学校

| <心高鳴る海>

今から300年ほど前の18世紀、英国人ジェームス・クックにより、オーストラリア大陸とグレートバリアリーフ(世界最大のサンゴ礁地帯)が発見されました。この頃から“未知なる海の解明”は人々に興奮を与え、その後、数多くの“新種生物の発見”が続き、時代と技術の進展にしたがい熱を帯びていきました。

そして現在、日本では“しんかい6500”に代表される「深海環境調査(地球最深部10,000mにはまだ手が届いていない!)」が、“未知なる海の解明”を目指して頑張っています。

しかし!海の調査や研究は決して富をもたらすものばかりではなく、場合によっては命を落とすこともあり、新しい発見の陰には、数え切れない研究者の命が海に捧げられてきたのも事実です。ここで皆さんに良く考えて欲しいことは、「ならばなぜ、危険を冒してまでお金にならないことを懸命にやろうとしてしまうのか!?’’ということなのです。

それは“それでも人は海に魅せられる”からです。海に出ると、そこでは胸を高鳴らせるものがすぐに見つかるからです。その胸の高鳴りは“もっと知りたい”という欲求を膨れあがらせませす。その思いは時代が変わっても絶対に変わらないものだと思います。私も胸の高鳴りを求めるように「せっかくの人生、奇想天外な生物に出会ってみたい!」と、地元の海に魅せられ、冒険心を掻き立てられた勢いで水産系大学に進学し、現在宮城県水産高校の教員をやっています。

私は特に、海の生物に対して胸が高鳴ります。海の生物は皆、とても個性的な姿形をしていて、人間を基準にすると考えられない習性を持っています。そして様々な種が生き残るために進化し続けているのだから不思議!例えば、プランクトンは、流れに逆らって泳ぐこともできず、多くの生物の餌となる弱い立場にありますが、生き残るために光合成だけではなく捕食を行い、分裂、接合など子孫を残す手段が様々あり、ひとつの種類の生物なのに、なんと2通り以上の生殖方法を持っています。

魚類なら背中の青色と腹側の銀色がうまい具合に保護色になって、自然に敵から身を守っています。生存環境の特に厳しい深海ではチョウチンアンコウの仲間が特徴的です。雌(メス)に寄生するために、雄(オス)がとても小さく、種類によっては雄が雌に同化してしまうものまでいます。これら海の生物のことを知れば知るほど本当に不思議なことばかりです。

水産高校の教員になった私ですが、今でも初めて出会う生物には大興奮しますし、想像を超える自然現象を目の当たりにしたときや、知らなかったことを知ることができたときの“胸の高鳴り”は何物にも代え難く、いつでも少年の頃のように、はしゃいでしまいます。

皆さんは最近、“ドキドキわくわく”していますか?ドキドキから離れている人は、海を眺めてみるのも良いでしょうし、海について書かれた本を手にとってみるのも良いでしょう。しかし、なお良いのは水産高校に飛び込んで見ることです!水産高校は、“ドキドキわくわく”の連続です。きっと、世界が大きく広がり、心の豊かさを与えてくれるはずですよ。“ドキドキわくわく”、そんな胸の高鳴りを一緒に味わいませんか!?

→<ドキドキわくわく！心高鳴る情報はこちら！>

<http://miyagisuisan.myswan.ne.jp/>

■ 4 編集後記 ■

今年度最後のメールマガジンとなりました。

5月から8ヶ月にわたり、さまざまな情報をお届けして参りました。県内の公立高校において、どのような教育活動が展開されているのか、少しは伝わったかと思えます。

みなさんが高校に関して疑問に思うようなことがあれば、中学校の先生をとおし各高校に問い合わせせてみて下さい。

受験生のみなさんの希望が叶いますようお祈りします。

一年間お付き合い頂き、ありがとうございました。

来年度も各高校の様々な情報をできる限りお伝えしたいと考えておりますので、「高校教育課 情報メール」をよろしくお願ひします！

◇◇◇高校教育課 情報メール（メールマガジン）◇◇◇

○発行：宮城県教育庁高校教育課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8-1

TEL：022-211-3626 / FAX：022-211-3696
